

令和 4 年 度 自 己 評 価 表

鳥取県立境高等学校

<p>中長期目標 (学校ビジョン)</p>	<p>価値観が多様化する時代を生き抜く力と豊かな人間性を育成する。                  ・多様な生徒に応じた教育課程・クラス編成等により、学力の向上と進路目標を実現する。                  ・切磋琢磨し、自己の多様な能力・適性を発見して才能の開花を図る。                  ・地域に信頼され、地域の期待に応え、地域を支える学校づくりをすすめる。</p>	<p>今年度の 重点目標</p>	<p>「BIG」に育て境高生                  1 部活動の振興を基軸としたチーム境高意識の高揚                  2 命の教育（人間教育）を充実                  3 主体的に学ぶ姿勢を確立して進路目標を実現                  4 学校業務改善の取組を進め、学習指導をはじめとする生徒に対する指導の充実を図る。</p>
---------------------------	---	----------------------	--

年 度 当 初					評 価 結 果		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
<p>1 部活動の振興を基軸としたチーム境高意識の高揚</p>	<p>○「部活動に入ってしっかり頑張った」と回答する生徒の割合が8割を超えること。                  ○全国大会出場者が80名、入賞者が5名を超えること。                  ○中国大会出場者が200名を超えること。</p> <p>○ボランティア活動や地域の活動に参加する生徒の数が増加すること。</p>	<p>○12月生徒アンケート結果「部活動に入ってしっかり頑張った」で「あてはまる」と回答する生徒が71.1%（「だいたいあてはまる」を合わせると84.8%）                  ○全国大会出場者36名（うち入賞者0名）。中国大会出場者数132名（近畿大会含む）。                  ○新型コロナウイルス感染症の影響により、大会や練習が制限される中、生徒は積極的に取り組んだ。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症の影響により、ボランティア参加者は16名（昨年度42名）で減少したが、地域ボランティア活動への生徒の参加意欲は依然高い。                  ○スクールプロジェクトを通じて地域の小学生と学習やスポーツの交流を行うことができた。</p>	<p>○文武両道の活力があり地域の誇りとなる普通科高校として存在                  ○県トップレベルの実績を持つ部活動を維持育成し、学校内外に活力ある境高を発信</p> <p>○地域のボランティア活動への積極的な参加                  ○部活動において地域の人材の力を借りたり、生徒が小中学生に学習やスポーツを指導したりすることで地域の信頼を獲得</p>	<p>○学年ごとの目標学習時間（1年2時間以上、2年3時間以上、3年4時間以上）をもっと周知、呼びかけする。                  ○学習と部活動の両立について、顧問から積極的に指導をする。</p> <p>○ボランティア募集情報を生徒に伝え、積極的な参加につなげる。                  ○生徒向けボランティア講座を開催する。</p>	<p>○部活動加入率は85%を超えている。                  ○陸上競技部、弓道部、ハンドボール部男女、ヨット部、写真部が全国大会に出場した。また、ソフトボール部、バドミントン部女子、硬式テニス部男子、書道部が中国大会に出場した。                  ○新型コロナウイルスの関係で活動が制限される中、生徒は出来ることを限りある時間で良く取り組み、多くの生徒が熱心に活動している。校外での活動も増え、活力を取りもどしてきている。                  ○定期考査前の部活動停止期間の設定は引き続き行っており、大会前などの事情による部活動の実施に関しても管理ができています。                  ○6月の調査での1日平均学習時間は1年次生148分、2年次生172分、3年次生213分であった。</p> <p>○9月末までのボランティア申し込み者数は延べ134名であった。                  ○10月以降実施予定のスクールプロジェクトには小学生が29名が申し込みをしている。中学生の高校参観時の生徒ボランティアは延36人だった。                  ○学校周辺清掃については、天候等の影響でまだできていない。しかし、部活動等多くの生徒が参加を予定していた。</p>	<p>B</p>	<p>○新人戦以降の活躍に向けて部活動指導に取り組む。                  ○部活動成績を適宜顕彰し、奮闘を応援する。学習とのメリハリを意識させ、学習の時間を意識して確保するよう呼びかけ、校内で学習に取り組める環境を設定する。                  ○継続すること、一生懸命取り組むことが大事だと伝える。また、今の自分を越えて、より高いレベルを目指す指導を行う。部活動に加入していない生徒には、様々な活動に挑戦するよう目標を持たせる。                  ○2月の学年末考査の時に学校周辺清掃を行う予定である。呼びかけをして積極的な参加につなげる。</p>
<p>2 命の教育（人間教育）を充実</p>	<p>○「自分や他人を大切にすることができた」と回答する生徒の割合が9割を超えること。                  ○「生徒は自分や他人を大切にすることができるようになった」と回答する教員の割合が9割を超えること。</p> <p>○「挨拶・服装等けじめのある学校生活ができた」と回答する生徒の割合が8割を超えること。                  ○ゴミの分別・減量化について、平成25年度との比較で継続して減量を実現すること。</p>	<p>○アンケート「自分や他人を大切にできる」の回答「あてはまる」71.8%                  「だいたいあてはまる」27.1%                  ○QVを用いて生徒の抱える問題の早期発見に努め、学級の実態を把握した。定期的に生徒情報交換会を行うことで組織的な対応に繋げて問題解決にあたった。                  ○環境委員を通じて、ゴミの分別の徹底・減量化などの活動を継続して行った。学校周辺清掃は、天候不順により1度だけの実施となった。                  ○新型コロナウイルス感染予防のため、「環境教育講演会」は実施出来なかったが、自己理解・他者理解のための講演・研修は11月にリモートで実施した。                  ○救命救急講習は、12月に行うことができた。</p> <p>○「挨拶・服装等けじめのある学校生活ができた」は「あてはまる」73%                  「だいたいあてはまる」26.3%。                  ○「校内外の清掃に勤（いそ）しみ、ごみの分別等もしっかりできた」の回答「あてはまる」55.2%「だいたいあてはまる」34.3%                  ○挨拶の習慣が定着している生徒が多い。                  ○頭髪・服装に関してはほとんどの生徒が規則を守れているが、女子のネクタイ不着用が目立った。                  ○SNSのトラブルはほとんどなかったが、校内でのスマートフォン使用違反が目立った。</p>	<p>○生徒一人ひとりの状況を全教職員が把握できているという人権尊重意識の高い職場                  ○命の教育全体計画に基づいた規範意識・人権意識の高揚</p> <p>○挨拶の励行、服装・清掃指導等の徹底                  ○生徒が主体となって取り組む学校環境の整備</p>	<p>○多くの生徒が自分や他を大切にできるという問いにポジティブな回答であるが、クラスや部活など個別の対応をきめ細かく行う必要がある。                  ○分掌間の連携により生徒情報を共有し、問題事案に対して組織的に対応する。                  ○今後も生徒の行動、発言、様子を見守り、状況に応じた適切な指導を行う。</p> <p>○生徒会執行部や部活動が中心となり、活発な挨拶ができるよう働きかける。                  ○挨拶の励行、服装、清掃活動は、細かいところに目を配り、継続して指導する。                  ○スマートフォンの使用については校内での使用ルールを徹底する。</p>	<p>○QVを用いて生徒の抱える問題の早期発見に努め、学級の実態を把握している。日頃行っている相談活動から得た内容や気になる生徒の情報を教職員間で共有している。また、学期1回の生徒情報交換会を行うことで組織的な対応に繋げて問題解決にあたっている。                  ○学事システムの活用により、生徒の所見情報が以前より共有できるようになっている。</p> <p>○生徒会執行部による朝の挨拶運動を実施した。                  ○挨拶の習慣が定着している生徒が多いが、最近やや意識が薄れてきたように感じる。                  ○頭髪・服装に関しては、ほとんどの生徒が規則を守れているが、女子のネクタイ不着用が目立った。また、化粧、登下校の制服着用など少し緩みを感じる。                  ○校内でのスマートフォン使用違反が12件あった。                  ○環境委員を通じて、ゴミの分別の徹底・減量化などの活動を継続して行っている。</p>	<p>B</p>	<p>○学年・分掌で情報共有し、職員全体で意思統一し連携して対応に当たる。保護者との共同を図る。                  ○高校生らしいさわやかな挨拶や身だしなみ、学校生活のきまりが守れるよう学年団との連携や後期生徒会執行部の活動を通して生徒に働きかける。                  ○1年次生対象の自己理解他者理解の講演会を12月に、全学年対象に命の教育講演会を1月に予定している。講演を通じて命の尊さを知り、大切にすることを養う。また、互いを尊重し合える心を養う。</p>

		年 度 当 初			評 価 結 果		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
3 学ぶ姿勢を確立して目指す進路を実現	○「進路目標を定め、その実現に向けて家庭学習を進めた」と回答する生徒の割合が5割を超えること。 ○国公立大学現役進学者数が30名を超えること。	○「進路目標を定め、その実現に向けて学習を進めることができた」の回答。「あてはまる」34.9%「だいたい当てはまる」44.2% ○「探究学習等に主体的に取り組むことができた」「あてはまる」38.4%「だいたい当てはまる」49.3% ○大学入学共通テストの出願率が7割を上回り75.4%であった。 ○D・A・Rナビの校内実施の他、校内に大学を呼んで学部学科研究を行い、生徒の進路意識が高揚した。	○生徒が3年間をとおして進路目標を持ち、その実現に向けて努力する姿の確立 ○キャリア教育全体計画に基づいた明確な進路目標を設定 ○「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を養うため、境考学を充実・発展	○共通テストの出願率は年々高まっているが、国公立大学合格者数とつながっていないため、他の指標（偏差値、人数など）を数値目標に掲げた方がよい。 ○安易に進路決定するのではなく、より高い目標を掲げて努力するよう指導する。	○今年度の大学入学共通テストの出願率は75.7%であった。 ○土曜日学習会・講習は予定通り実施している。 ○学校独自事業『先輩との交流』は中止となったが、1年生対象『企業等に学ぶ』を10月に行った。また、『インターンシップ』は2月に予定している。 ○学校独自事業『D・A・Rナビ』を7月初旬に校内にて開催した。1・2年生対象『学部・学科研究』を11月実施予定である。 ○「境考学」では1年次生は、地元の企業の方から、地元でのSDGsの取り組みを学ぶ機会を作ることができた。2年次生は、地域に出かけてイベントに参加をし、地域の方と一緒に活動をする機会を持つことができていた。 ○1年次生は「進路目標を定めた学習態度」には至っておらず、2年次生もみなどテラスの自習スペースを活用する生徒も見受けられるが、まだ自学の姿勢が身につけていない生徒が多い。3年次生は、放課後自主的に勉強する生徒が増えた。 ○共通テストを含む大学入試に向けた対策がまだ不十分である。	B	○国公立大学・有名私大の合格者数を増やすため、特進クラスの在り方・8限講習の取り組みについて校内で議論中である。 ○学習成果発表会を通して多くの地域活動を知り、興味関心を高め、より地域活動へ参加できる機会づくりを行う。 ○各年次生の取り組みで改善すべきことを共有し、記録を残す。 ○「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を育成するため、その際有効なクロームブックの使い方を模索する。 ○他分掌と連携できるものについては合同でやるなど生徒にとって重複のない行事を企画する。
	○「授業の内容に興味をわき、理解が深まった」と回答する生徒の割合が8割を超えること。 ○タブレット端末等のICTを活用した生徒主体の授業を8割以上の教員が実践すること。	○「授業に前向きに取り組む、理解を深めることができた」の回答。「あてはまる」44.4%「だいたいあてはまる」45.8% ○境考学では主体的に活動ができている生徒もいたが、なかなか自ら行動ができない生徒も多数見受けられた。	○1人1端末を用いた授業研究会並びに授業参観週間での各教科代表による公開授業の定着	○授業を中心とした学習指導を継続していく。自学の習慣を身につけさせ、家庭学習を定着させる。また、テスト前にも集中して取り組むよう指導を続ける。自習室の開放を行う。 ○境考学では生徒に対する一層の教職員からの声かけや指導が必要。	○授業を公開週間において公開授業を実施している。 ○クロームブックの活用研修会を実施したが、活用はまだ不十分である。 ○クラスルームを使用し、課題や資料の配付を行っているが、未だに使い慣れていない生徒も多い。 ○図書館入口に探究掲示板を作り、生徒に地域の活動を知らせる工夫をした。	○ICT活用についての情報を積極的に収集し、意見交換をしていく。 ○教員向け講演会を検討し、教員に探究学習に対する知識や必要性を伝える。 ○多くの生徒が地域の活動を知ることができるよう、学年掲示板作成を検討する。	
4 学校業務改善の取組	○行事や委員会等を抜本的に見直す。 ○長時間勤務者の解消	○時間外業務80時間超勤務者は0名、45時間以上80時間以下勤務者はのべ28名と前年15名から大幅に増加したが、特定の教職員に偏っている。 ○行事や部活動、会議の見直しをして業務の負担を減らそうとはしているが、まだ不十分である。 ○3年生の面接指導・小論指導は全教員で分担して取り組めた。 ○週明けテストや8限自学講習は従前の通り実施した。	○時間外業務の上限が、月45時間、年360時間を超えないよう遵守 ○休養日、活動時間を設定した活動方針の全部活動への徹底	○早めに管理職から面談等を実施し、時間外勤務時間の削減を図る。 ○運営委員会等の設定時間、開催回数の見直しが必要。 ○人権LHRと境考学等で担任の負担が大きいため割り振りや根本など見直しが必要。	○前期の時間外業務は、月80時間超勤務者は0名、月45時間超が延べ16名であった。 ○運営委員会を毎週から月2回に変更した。 ○学事システムにおける日々入力の導入により、日常の出欠欠課管理、定期試験後の成績処理業務の負担軽減につながっている。 ○ノーツの活用による文書共有、電子掲示板機能の利用により、従来のホワイトボードを利用した掲示板の廃止や文書管理など効率化が図れた。 ○教員用PCの更新、各種ソフトウェアの更新により事務処理速度が向上した。 ○各分掌から業務が下りてくるのが実際になり混乱をきたすことがあった。	B	○引き続き声掛けを行い、教職員の心身の健康維持を推進する。 ○計画段階から関係分掌や学年との連携を早めにとり、担任負担の減少を図る。 ○週明けテストと8限講習の必要性を議論し今後のあり方を考える。

評価基準 A:十分達成 B:概ね達成 C:変化の兆し D:まだ不十分 E:目標・方策の見直し  
 [100%] [80%程度] [60%程度] [40%程度] [30%以下]